

「Life is simple 人生は単純」

使徒 13:1~23

Life is simple 人生は単純 使徒 13:1~23

フィリピンでは雨が降るとすぐに河が溢れて、道に汚水まみれ臭い水たまりが出来ます。それを現地では、バハバホ「臭い河」と呼びます。それは化学物質や生活排水を含むためとても臭く、またその水で靴が濡れてしまうと足が痒くなってしまいます。その靴は二度と履けません。ですからそこに住んでいると、靴ではなくサンダルを履く必要を学びます。ですが、濡れずに渡るには、水溜まりに飛び石を置いて渡れば足元は濡れず、また次に渡る人もまた濡れずに済むのです。このように解決は至ってシンプルです。なのに私達は、人生のあらゆる決断において、わかっているのに濡れる方を選ぶようなことをしてしまうのです。では私たちはどう有るべきなのでしょう。愚かな方を選んでしまっているのか、よく確認をしたいのです。馬耳東風の如く、言われても聞かない、先のことを考えないで過ちを繰り返し学ばないのは、何かに覆われてしまっていて目が見えていないのです。人間である私たちは、感情を意思によって制御して過去の記憶と神様の知恵によって生きています。感情だけで行動するというのは、餌を目の前にした犬が、それを与えてくれた飼い主にさえ唸るといような行為です。ですがそんな犬でさえも叱られてそれはいけないことと学びます。

正しい事には戦い(妨害)がある しかしそれが益となる

不安と恐れからくる排他的な自分を守るための行動でなく、平安から得るみんなを守るような行動ができるように…バルイエス：イエスの子：偽キリスト→偽物に注意！

「セルギオ・パウロ」(地方総督)は賢明とあります。賢明とは偏らずバランスがとれている事を言います。セルギオは一方だけの意見を聞くのではなく、両方の意見を聞き、吟味しました。

知識(ロゴス)あらゆる情報に左右されるのは愚かです。知識を知恵(レイマ)によって見極めていくことが賢明といえます。知識に知恵を持つことが大切です。

私たちはどうでしょうか？メディアから得るのは情報であり、それによって影響を受けて行ってはいけません。賢い決断ができたソロモンには知識がありました。そして神の知恵を求めました。賢さとはこのソロモンのようにまた地方総督セルギオのように、知識(ロゴス)に知恵(レイマ)が合わさり、見極めていく賢さによって真実を見つけることです。それは東西南北、情報の中心に自分を置いて情報を精査したバランス感覚のあることであり、情報に右往左往し感情的に決断を急ぐ事は愚かしい行為なのです。神様からの声が聞こえていますか。語る前に、まず静けさの中に住まう神様の声を聞こうとする姿勢はありますか。くつわをかけるように、この口が語ることを制し聞き従うことを学んで勝利を得るのです。

クリスチャンの生き方 魂を沈め知恵を聞く

「第一次宣教旅行」

13:1 さて、アンテオケには、そこにある教会に、

バルナバ、ニゲルと呼ばれるシメオン、クレネ人ルキオ、国主ヘロデの乳兄弟マナエン、サウロなどという預言者や教師がいた。13:2 彼らが主を礼拝し、断食していると、聖霊が、「バルナバとサウロを私のために聖別して、わたしが目下任務に就かせなさい。」と言われた。13:3 そこで彼らは、断食と祈りをして、二人の上に手を置いてから、送り出した。

使徒13章では、初代教会がはじめて人を宣教の地に遣わしたことを記した章です。これが伝道旅行の始まりです。このアンテオケでは1節にあるように多くの異邦人に救いが起こっていたことが分かります。「ニゲルと呼ばれるシメオン」とは「ニゲル」は「黒い人」、「シメオン」についてはイエスの十字架を共に背負った「クレネ人シモン」だという説もあります。クレネ人ルキオを見ると、クレネ人シモンを通して救いが起こっていたことを思わされます。「マナエン」イエスの出生を恐れ、歴代イエスを迫害し続けたヘロデと同じように育てられた乳兄弟も救われていました。何を決断しどう生きるかが大切であるかが、ここからもわかります。私たちは今まで自分が築いて来たと思っているもの、その全てが恵で奇跡の産物であること、始めから自分のものではない、にも関わらず失うことを恐れたりしてはいないでしょうか？自らで蒔かずその実を刈り取っているのに、そのうえ一体何に執着しているのですか？執着するその命すら自分のものではないのに、なぜ死ぬのが怖いのでしょうか？

わたしたちは恐れず備えて天命を待つこと、そのことを聖書から知っています。自ら得ようとすれば失うのです。あなたは本当に目が見えていますか？その目の先にズレたモノを見てはいないでしょうか？そして本当に頼るべきものを間違えてはいないでしょうか。知っている私たちが行うべきことはシンプルなのです。

死に至るまで神に忠実に聞き従う

恐れは罪でしかありません。そして全ては恵みでしかありません。「バル・イエス」(偽りの神)、自分の中で「～さえあれば大丈夫(神様以外のもの)」「頼ってしまうもの」「執着」…。その様なものがあなたの中の偽りの神・バルイエスです。その偽りがなんであるか知り、捨て去って行きましょう。そして新しい事をしようとするとき必ず妨害があります。しかし私たちの神様はいつも共にいて下さいます。諦めず信じて向き合い続けるなら問題は必ず益となるのです。その痛みから神の栄光が顕されるようになります。「あなたは盲目になっていないか？」もう一度、自分の偽りの神を見つめ直しましょう。繰り返しになります、私たちのすることはシンプルなのです。友として、私たちに伝えてくださる神様を信じて聴き従おうと、いつも神様と共にあることを選びたいのです。盲目な行いとは、他を裁き、保身のため剣となって他を排除することを捨て、今日からまた新しい決断と歩みを始めましょう！死に至るまで神に忠実に聴き従うものとなるために！

(要約者:牧三貴子)

(2020年8月2日)